しもつけしじちきほんじょうれいじょうほうし
下野市自治基本条例情報紙

第13号

らいさま

＜特集＞下野市の今を切り取る

栃木県下野市は、雷とともに夕立が多い地域です。雷は昔から「雷（らい）さま」と呼ばれ、豊かな作物を育てる恵みの雨をもたらす存在としてあがめられてきました。雨降って地固まると言われるように、この情報紙が、豊かな地域づくりにつながるように「らいさま」と名付けました。

下野市自治基本条例とは…

私たち市民にとって、よりよいまちづくりを進めるための基本的な考え方、ルールを定めた自治基本条例（平成26年4月制定）は、特別な規制を設けるものではなく、日々さまざまな活動を行っていく中で、よりよい下野市のまちづくりに役立てていこうとするものです。

P.2　地域振興のためのメディアづくりワークショップを実施しました
P.3　ローカルメディアとは？
P.4　メディアづくりワークショップへようこそ
P.5　ローカルミーム（文化的遺伝子）を未来につなぐ
P.6　外の目中の目・らいさまNEWS

令和3年 8月
VOL.13

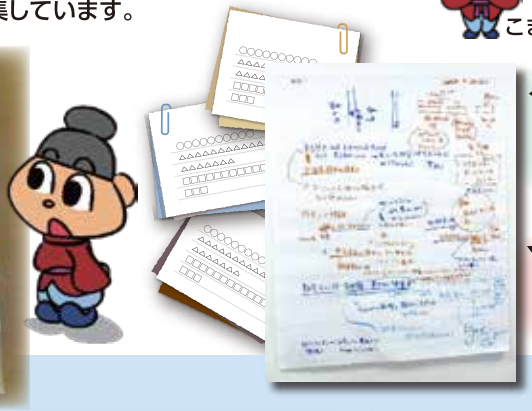
地域振興のためのメディアづくりワークショップを実施しました

らいさまは、市民が主役のまちづくりを推進するために制定された下野市自治基本条例の普及啓発を目的として、2015年1月の創刊を迎えて以来、約7年にわたって市内のまちづくりに関わる取り組みを取材し、活力ある地域づくりに奮闘する市民や事業者の姿を発信してきました。発行は年に2回なのでその時々の「下野市の今」を切り取り編集委員の視点で編集しています。

こまろ

下毛野朝臣古麻呂
(しもつけのあそんこまろ)
(大宝律令の選定に携わった下野市ゆかりの人物)

べにまる



◀取材時に取ったメモもだいぶ増えました
取材現場で縦76cm横63cmの大きな紙に書き込んでいます

▼コロナ禍のなかリモート取材にも協力していただきました【第12号参照】

みんなで意見交換しながら進めた取材もワークショップみたいだったね！

【第２号特集】子ども未来プロジェクトでまちづくりに参加した中学生と意見を交わしました

【第1号特集】吉田村まつりの取材風景

【第２号特集】小山北桜高校で環境美化活動について取材

【第１２号特集】昔の吉田河岸や河川の防災について伺いました

ローカルメディアを考えよう!

地域に根付き、そこに住む人たちにとって身近な情報を発信するメディアはローカルメディアと呼ばれています。

ローカルメディアは地方新聞のように紙で発行されるものや Web、テレビやラジオ放送など様々な形で存在しますが、下野市の人々や事業者など日常の情報を市民と市の協働で発信している**らいさま**もローカルメディアのひとつです。

第12号まで発行した**らいさま**を振り返り、これからもより良いローカルメディアとして地域の魅力ある情報を発信していけるよう、同じように地域の情報を伝えていきたい人たちとメディアのあり方について意見交換できる場として「地域振興のためのメディアづくりワークショップ」を実施しました。(開催日　令和3年3月21日)

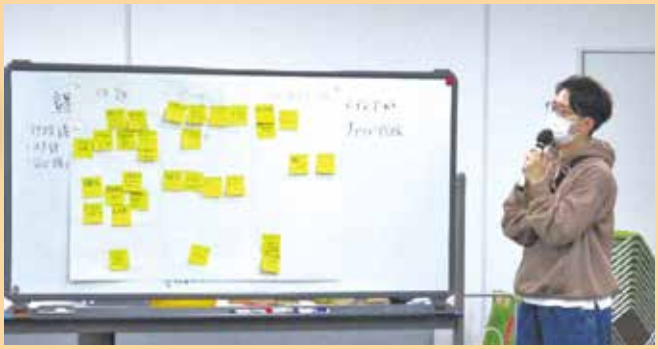
つながっテルね！
条例６条

（情報提供）

第6条　議会及び市は、その保有する情報について市民との共有財産であるとの認識に立ち、積極的に、かつ、分かりやすく市民への情報提供に努めるものとする。

ローカルメディアとは？

今回のワークショップ講師を務めていただいたのは、”ローカルメディアのつくりかた”の著者である影山裕樹さん。影山さんは全国各地で地域プロジェクトの企画や運営をしながら、まちづくりに取り組む人たちを支えています。
身近でタイムリーな地域の姿をより魅力的に伝えるため、様々な媒体の独創的なローカルメディアを見てきた影山さんと参加者が意見を交わしました。



ローカルメディアの特徴

全国ネットの新聞紙やテレビ放送のようなマスメディアが広範囲で多くの人に同じ情報を一斉に伝えるのに対し、ローカルメディアが記事を発信する対象は主にその地域に暮らす人々であり、情報とそれを受ける人との距離が近く、情報に対する反応も発信者に届きやすい。SNSが発達してローカルな情報を世界中に伝えられるようになり、長く発信し続けていれば思いがけないところで話題に上ることもあるため、ローカルメディアは地道につくり続けることで効果が表れやすくなる遅効性のメディアと言えます。

ニュースを伝える人と受け取る人の間で、情報が一方通行ではなく双方向にやり取りし易いのがローカルメディアの良いところ!ローカルメディアって人の結びつきができるね。

らいさまは取材のときにも取材を受ける人と編集委員が意見を交わしたりするから、情報提供者とらいさまをつくる人と読む人がそれぞれ情報をやり取りしてるってことだね。

つながっテルね！
条例10条

（協働）

第10条　市民、議会及び市は、まちづくりを推進するために、それぞれの立場を理解し、目的を共有し、相互に依存することなく力を合わせて、その実現に努めるものとする。

メディアづくりワークショップへようこそ

◀ワークショップでは、はじめにカードを使用して下野市ならではの特色をどんな形のメディアで伝えていけるかアイデアを出し合いました。

小学生や市議会議員、ラジオのパーソナリティまで、いろんな世代や職業の参加者がフラットに意見交換できるなんてユニークなワークショップだね!

廃校を活用して、広い世代で参加できる謎解きをやってみたい！

なるほど！

廃校をスタート地点にしてウォーキングしたり、校内でドキュメンタリー映画上映とかプールや図画工作室など廃校全体を使って面白いことができそう

いいネ

実現したら楽しそう♪

WebやFMラジオ放送を使って、外国の人たちと自分の住んでいる地域の歴史や文化について対談してみたい！

空き店舗とそれを活用してチャレンジしたい人とをマッチングできるメディアをつくって利用希望者による空き店舗ツアーをやりたい

若い世代が自分の住んでいる地域にもっと関心を持てるようにSNSなどのメディアを使って地域の横のつながりを活性化したい

国際交流とドキュメンタリーを組み合わせたい！東国の中心地として栄えていた下野市の歴史をドイツなど外国の人に伝えて相手の文化も教えてもらいたい

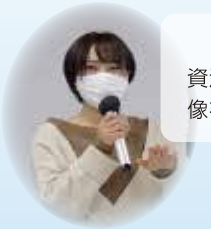
つながっテルね！

条例11条

（子どもの参画）

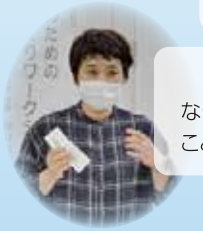
第11条　市民、議会及び市は、子どもを下野市の未来を担う地域の宝として育てるとともに、子どもがまちづくりに参画する機会を積極的につくり、その意見を尊重するものとする。

ローカルミーム（文化的遺伝子）を未来につなぐ



日本各地の先進的なローカルメディアをご紹介いただけて、とても興味深かったです。地域の資源を上手に使ったメディア作りを考えるグループワークでは、色々な意見を聞くことができ、想像をどんどん膨らますことができて楽しかったです。（大橋真里さん）

地域メディアに関わる人達だけではなく、様々な職種、幅広い年齢層の方が参加されていました。地域課題を考え、解決策を生み出すワークショップでは、参加者から良いアイディアが飛び交い、多くの発見があった時間でした。（大坪亜紀子さん）



インターネットの発展と共に新聞や紙媒体以外にも様々なツールを使って情報発信が可能になった今、時代や受け取り側にマッチしたメディアの考え方をワークショップ形式で段階的に学ぶことができました。（中島久子さん）

ワークショップの中で特に印象に残ったことは、情報発信の方法によっては、情報媒体が地域活性化のコミュニケーションツールとして活用できるということ、ある物事の情報を新たな切り口で発信することによって、これまでにない魅力を伝えることができるということです。今後はこうした視点を取り入れて、文化財の魅力を多くの方々に発信していきたいと思います。（下谷淳さん）

◀下野市のローカルメディアです

▶グループワークでは編集委員がらいさまについて説明しました

みんながそれぞれのやり方で下野市の特色を残してくれたらいいよねらいさまも長く続けられるように頑張るよ!

人が住む場所にはその地域で受け継がれてきた風習や方言などが多く残っており、影山さんはそれをローカルミーム（文化的遺伝子）と呼びます。ローカルメディアはその地域に特化したメディアであるからこそ、失われつつあるローカルミームを未来へ引き継いでいくことができるのです。情報を発信するたびに地域の文化を保存し、誰もが積み重ねられたまちの文化と魅力に触れることができるのがローカルメディアです。情報を発信し続けることが大事ということを改めて感じたワークショップでした。

つながっテルね！
条例４条

（自治の基本理念）

第４条　市民が主役のまちづくりを推進することを基本理念とする

２　市民、議会及び市が協働によるまちづくりを推進することを基本理念とする。

制作のプロセスから新しいアイデアが生まれる

“まちを編集する出版社”千十一編集室　代表　影山 裕樹 氏

ワークショップ
講師の影山さんに
伺いました

緊急事態宣言の合間を縫って、開催にこぎつけた下野市役所のみなさま、らいさま編集委員のみなさまのご協力に感謝いたします。下野市に伺うのは初めてで、いわゆる都市郊外の課題を抱えているのと同時に、魅力もたくさん秘めている土地だと感じました。僕が特にハマったのは、道の駅に突如として現れたあの、なんてことない展望台。滑り台付きのですね。地元の人からすると、風景の一部になっているかもしれませんが、よそ者からするととてもユニークで刺激的な施設だと思います（本当です!）。ローカルメディアは出来上がったものそのものよりも、その制作のプロセスの中で、多様な市民が協働し、新しいアイデアや視点が生み出されるところに価値があります。ぜひ、らいさまというローカルメディアを起点としながらも、今後もさらなる市民どうしの協働、そしてよそ者との交流が生み出されることを祈っています。

らいさまNEWS

ニュース 姿西部考古台地コミュニティセンターがリニューアル

旧国分寺西小学校のランチルームを改修し、令和3年4月より姿西部考古台地コミュニティセンターとして活用しています。平成31年3月に64年間の歴史に幕を閉じた国分寺西小学校は、周りにたんぽぽが咲いていたためたんぽぽ学校と呼ばれ、校章もたんぽぽをデザインしたものであったことから、施設の愛称は【たんぽぽ館】と名づけられました。地域住民が自主的に協力しあう地域コミュニティの拠点として、指定管理者に選定された姿西部考古台地コミュニティ推進協議会が管理運営を行っています。ちなみに移転前まで姿西部考古台地コミュニティセンターとして使用していた施設は、姿西児童館として今も活用されています。

2005年10月3日にオープンした、姿西児童館「こだま館」の2階がコミュニティセンターでした。役員会議や年に数回の行事等での利用しかなく、階段の上り降りが困難になってきた方のお声も聞いていました。これからは、西小のランチルームだった利点を生かして、「ちょっと行ってみようかな!」と思っていただける場所にしていきたいです。皆さまのご予約をお待ちしています。

～姿西部コミュニティ推進協議会会長　近藤令兒～

電話…080-5828-9884　mail…tanpopokan@gmail.com

編集後記

2014年度の夏から始まったらいさま編集委員会も7年が経ち8年目を迎えようとしている。第1号で取材した第一回吉田村まつりの会場に隣接する旧農協の石蔵は2021年度の夏に食に関連した店舗や農泊やグリーンツーリズムの拠点としてオープンするようだ。市内のまちづくりの現場に出向き当事者の話を聞き、少しは知った気になったものの7年の月日がマチもヒトも変化させる。日常生活の中でパターン化した自分の行動範囲を越えてみると下野市は思いの外広い。そして、訪ねたことのない地区がまだまだ眠っていることに気づかされる。これからもSNS の発信からこぼれ落ちたものも積極的に掘りおこしながら、地域コミュニティやヒト、文化的資源などを訪ねて下野市の各地の今を編集し続けるローカルメディアでありたい。（お）

【表紙】下野市のローカルミーム（文化的遺伝子）を切り取る

企画･編集　下野市自治基本条例情報紙編集委員会（岡田雅代、鈴井祐孝、諏訪守、黒須重光、影山恵子）
発　　行　下野市市民協働推進課（栃木県下野市笹原26番地）TEL 0285-32-8887　FAX 0285-32-8606　E-mail :shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp